

令和5年度
大阪府公立高等学校入学者選抜における配慮事項に係る
申請書作成の手引

秋季入学者選抜

この手引は、秋季入学者選抜における配慮事項に係る申請書作成にあたり、特に作成の方法及び留意すべき事項について説明したものです。「令和5年度大阪府公立高等学校入学者選抜配慮要項秋季入学者選抜」を参照しながら利用してください。

目次

I	申請書作成の流れ	4
1	使用するファイル	4
2	ファイルの構成	5
3	申請書作成の流れ	5
II	障がいのある生徒に対する配慮	6
1	使用するファイル	6
2	入力	6
(1)	「区分」の入力	6
(2)	「1 申請者」の入力	6
(3)	「2 障がいの種類や程度」の入力	7
(4)	「3 障がいの状況」の入力	8
(5)	「4 中学校における配慮」の入力	9
(6)	「5 小論文において希望する配慮」の入力	9
(7)	「6 生活上必要な配慮」(身体等の介助、医療的ケア、トイレ等介助など)の入力	11
(8)	「7 受験に際し配慮を必要とする具体的理由」の入力	11
3	出力	13
(1)	入力内容の確認	13
(2)	「中学校具申」「市町村教育委員会副申」欄の確認	13
(3)	印刷	13
4	添付書類について	13
5	提出前に	13
III	日本語指導が必要な帰国生徒等に対する配慮	14
1	使用するファイル	14
2	入力	14
(1)	「区分」の入力	14
(2)	「1 申請者」の入力	14
(3)	「2 申請の区分」の入力	15
(4)	「3 申請者の帰国・入国に係る確認」の入力	15
(5)	「4 帰国等の状況」の入力	16
(6)	「5 小論文において希望する配慮事項」の入力	16
(7)	「6 日常生活で使用している言語等の状況」の入力	17
(8)	「7 中学校における配慮や支援等」の入力	18
(9)	「8 申請者の渡航歴等」の入力	18

3	渡航歴の考え方	20
	(1) 「帰国又は入国した年月日」	20
	(2) 「編入学した学年」	20
4	出力.....	21
	(1) 入力内容の確認.....	21
	(2) 「中学校具申」「市町村教育委員会副申」欄の確認	21
	(3) 印刷	21
5	添付書類について.....	22
6	提出前に	22

この冊子では、「中学校」及び「中学校長」を以下のとおりとします。

- ・中学校とは、大阪府公立高等学校入学者選抜実施要項に示す中学校（中学校若しくはこれに準ずる学校、義務教育学校又は中等教育学校の前期課程）のこととする。
- ・中学校長とは、中学校、支援学校、特別支援学校、義務教育学校、中等教育学校及び日本人学校の校長とする。

I

申請書作成の流れ

1 使用するファイル

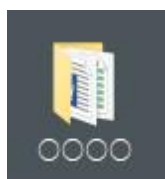
大阪府公立高等学校秋季入学者選抜における配慮事項に係る申請書は、いずれもエクセルファイルにより作成します。

申請	使用するエクセルファイル
障がいのある生徒に対する配慮申請書	701-703_障がいのある生徒に対する配慮申請.xlsx
公立の中学校用 (様式 701)	
府立支援学校、国私立の中学校等用 (様式 702)	
ダイレクト用 (様式 703)	
日本語指導が必要な帰国生徒等に対する配慮申請書	704-706_日本語指導が必要な帰国生徒等に係る申請.xlsx
公立の中学校用 (様式 704)	
府立支援学校、国私立の中学校等用 (様式 705)	
ダイレクト用 (様式 706)	

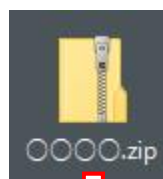
※府立中学校にあつては、府立支援学校と同じ様式を用いること。

使用するエクセルファイルは、「zip 形式のフォルダ」内では、正常に動作しないことがあります。「zip 形式のフォルダ」(ファイルの拡張子が「.zip」となっているもの)の場合は、必ず、

- ・デスクトップ等、適切な場所に保存し、
- ・「圧縮フォルダツール」から「すべて展開」により、展開して zip 形式から通常のフォルダに変換してください。



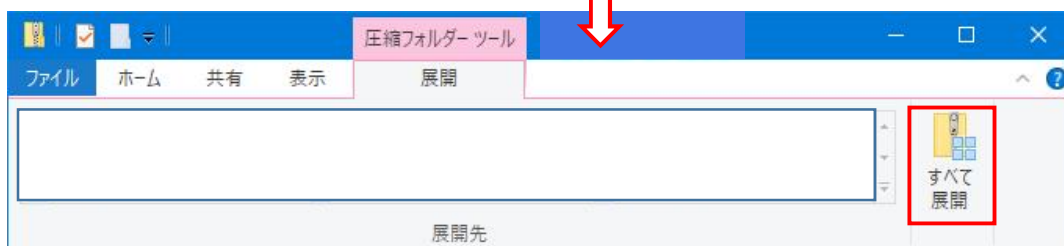
通常のフォルダ



zip 形式のフォルダ

←最後が「.zip」

又はファスナのアイコン

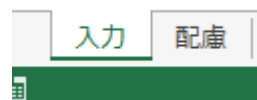


2 ファイルの構成

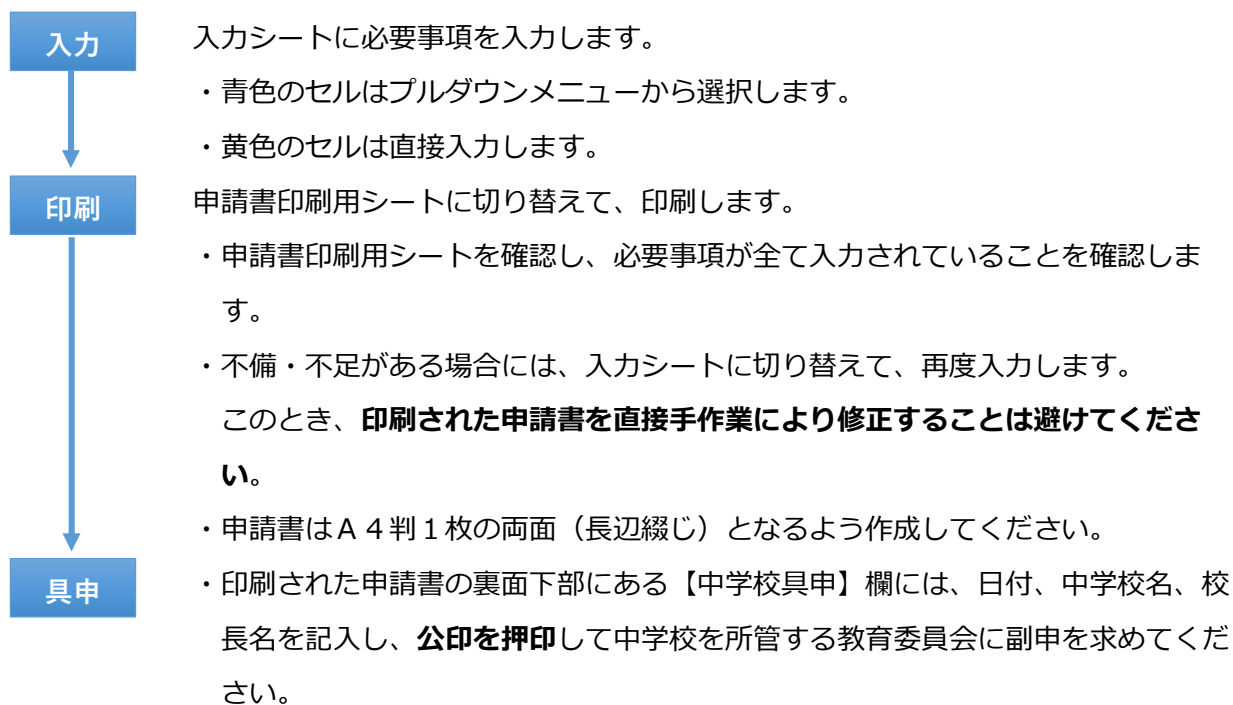
それぞれのエクセルファイルは、作業ごとにシートを区分しています。

- ・「入力」用シート 申請に必要な事項を入力するためのシートです。
シート名はいずれも「入力」で、以後、「入力シート」と呼びます。
- ・申請書印刷用シート 印刷するためのシートです。
シート名は申請の種類ごとに次のとおりです。

申請	申請書印刷用シート名
障がいのある生徒に対する配慮申請書	配慮
日本語指導が必要な帰国生徒等に対する配慮申請書	配慮



3 申請書作成の流れ



II

障がいのある生徒に対する配慮

1 使用するファイル

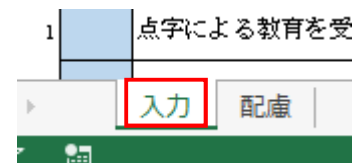
ファイルは「701-703_障がいのある生徒に対する配慮申請.xlsx」です。



701-703_障がいのある生徒に対する
配慮申請.xlsx

2 入力

入力シートにより入力を行います。



(1) 「区分」の入力

ア 区分は「公立の中学校」「府立支援学校」「国私立の中学校等」から選択してください。

- ・府立中学校は「府立支援学校」を選択してください。
- ・「ダイレクト」は海外現地校から志願する者の区分です。

イ 区分で「公立の中学校」を選択した場合は、「市町村名」を入力してください。

- ・入力は「大阪市」「能勢町」のように、市・町・村まで入力してください。
- ・区分で「公立の中学校」以外を選択した場合は、「市町村名」の入力欄が表示されません。

はプルダウンメニューから選択し、 は必要事項を入力してください。

区分	公立の中学校	市町村名	大阪市	「大阪市」のように市・町・村まで記入
	公立の中学校			
	府立支援学校			
	国私立の中学校等			
	ダイレクト			

(2) 「1 申請者」の入力

ア 名前は指導要録に記載のとおりに入力してください。

- ・通称名をも記載する場合は、本名のあとに（ ）で入力してください。
- ・不必要なスペースの入力や改行は避けてください。
- ・アルファベットは半角で入力してください。
- ・ふりがなと名前の位置を揃える必要はありません。
- ・ふりがなの表記は指導要録の記載のとおりとし、ひらがなで記載されている場合にはひらがなで、カタカナで記載されている場合にはカタカナで入力してください。

イ 生年月日は指導要録に記載のとおりに入力してください。

- ・「元号」／「西暦」はプルダウンによって選択できます。

ウ 中学校名を入力してください。

- ・「〇〇立」は、自動で表示されます。これに続けて入力してください。
- ・卒業（見込み）年月の入力にあたっては、「元号」／「西暦」及び「卒業」／「卒業見込み」はプルダウンによって選択できます。

 はプルダウンメニューから選択し、 は必要事項を入力してください。

区分	公立の中学校	市町村名	大阪市	「大阪市」のように市・町・村まで記入
----	--------	------	-----	--------------------

1 申請者				
ふりがな	おおさか はるこ		ふりがな、名前及び生年月日は指導要録に記載のとおりに入力	
名前	大阪 春子			
生年月日	平成	〇	年	10 月 22 日生
中学校等	大阪市 立	〇〇中学校	令和	〇 年 3 月 卒業

生年月日 西暦 〇 年

平成 昭和 西暦

令和 〇 年 3 月 卒業

令和 平成 昭和 西暦

卒業 卒業見込み

(3) 「2 障がいの種類や程度」の入力

障がいの種類や程度について、○をプルダウンにより選択して入力してください。

2 障がい等の種類や程度	
1	点字による教育を受けている者
2	強度の弱視者で、良い方の目の矯正視力が0.15未満の者
3	その他視覚に関する配慮を必要とする者
4	両耳の平均聴力レベル（裸耳）が30dB以上の者で、補聴器を使用しても語音が明瞭に聞き取れない者
5	その他聴覚に関する配慮を必要とする者
6	体幹の機能障がいにより座位を保つことができない者又は困難な者
7	両上肢機能の障がい著しい者
8	下肢の機能障がいにより歩行をすることができない者又は困難な者
9	その他肢体不自由に関する配慮を必要とする者
10	慢性的呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患、消化器疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
11	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等のため配慮を必要とする者
12	その他障がいや病気等により配慮を必要とする者
13	けがにより配慮を必要とする者

(4) 「3 障がい」の入力

ア 障がい者手帳の有無をプルダウンにより選択し入力してください。「有」を選択した場合は、「内容」に障がい者手帳の種類や交付年月日、等級を入力してください。

3 障がいの状況	
障がい者手帳	有
内容	身体障害者手帳 1級 (平成〇年〇月〇日交付)
	無
	有

イ 申請者の障がいの状況（診断名だけでなく、具体的な状況）を入力してください。

3 障がいの状況	
障がい者手帳	有
内容	身体障害者手帳 1級 (平成〇年〇月〇日交付)
先天性の脳性まひにより両上肢及び下肢にまひがある。安定して座位を保持することが困難である。電動車いすを使用し、腰と足首部分を固定している。体位の保持が難しく、身体全体のバランスをとることが難しい。しばしば緊張により身体が硬直するため、筆記等に時間がかかる。	

ウ 「2 障がい等の種類や程度」で「視覚障がい」に関する項目を選択した場合は、障がいの状況に加えて、視力について入力してください。

2 障がい等の種類や程度	
<input checked="" type="checkbox"/>	点字による教育を受けている者
<input type="checkbox"/>	強度の弱視者で、良い方の目の矯正視力が0.15未満の者
<input checked="" type="checkbox"/>	その他視覚に関する配慮を必要とする者

障がいの状況	
障がい者手帳	有
内容	
視力	右 0.01 左 0.05

エ 「2 障がい等の種類や程度」で「聴覚障がい」に関する項目を選択した場合は、障がいの状況に加えて聴力について入力してください。

<input type="checkbox"/>	両耳の平均聴力レベル（裸耳）が30dB以上の者で、補聴器を使用しても語音が明瞭に聞き取れない者
<input checked="" type="checkbox"/>	その他聴覚に関する配慮を必要とする者

障がいの状況	
障がい者手帳	有
内容	身体障害者手帳 2級 (平成〇年〇月〇日交付)
生れつき高度の難聴で、現在は補聴器を常時使用し、大きな声であれば30cmくらいの距離で聞くことができる。日常生活では周囲の雑音るときは聞き取りにくい。右側に比べて左側からの音は聞き取りにくい。対面した相手は手話がなくても口の動きである程度理解できる。知らない言葉や雑音がある中では、文字情報や手話などの視覚的な支援を必要とする。明瞭に聞き取りができないため、配慮を要する。	
平均聴力レベル	右 76 dB 左 81 dB
補聴器使用状況	日常使用

4 中学校における配慮	使用せず 授業中使用 日常使用
-------------	-----------------------

(5) 「4 中学校における配慮」の入力

中学校で行っていた配慮を、「授業」、「考査」、「生活」等の観点から入力してください。

4 中学校における配慮
授業は教員や介助員による支援のもとで行った。主な支援は、板書や体育等実技教科の補助である。教室では車いすに特製机を装着して使用している。試験は、別室受験、試験時間の延長(約1.3倍)、解答用紙のみの拡大(A4→B4)により実施した。筆圧が弱いため、昨づや色を塗るような解答は困難であることから、本人の指示により代筆をすることがあった。消しゴムや直定規、コンパスの使用も困難であり、本人の指示により教員が使用を補助した。生活に関しては、トイレ、更衣の補助、移動時の見守り、休み時間に行うストレッチの補助を行った。

(6) 「5 小論文において希望する配慮」の入力

小論文において希望する配慮の項目について、プルダウンにより○を選択して入力してください。

ア 「検査時間に関する配慮」の入力

- 「検査時間に関する配慮」が必要な場合にはプルダウンにより○を選択して入力してください。

5 小論文において希望する配慮	
検査時間に関する配慮 (原則別室)	
1	点字による受験(検査時間を1.5倍に延長)
2	<input checked="" type="radio"/> 検査時間の延長(約1.3倍)

- 「点字による受験(検査時間を 1.5 倍に延長)」を選択した場合には、「検査室に関する配慮」で「別室」、「検査用紙に関する配慮」で「点字」(自動で選択)、その他必要な項目(「持参して使用するものに関する配慮」等)を選択し入力してください。
- 「検査時間の延長(約 1.3 倍)」を選択した場合には、「検査室に関する配慮」で「別室」、その他必要な項目を選択し入力してください。

イ 「検査室に関する配慮」の入力

- 「検査室に関する配慮」が必要な場合にはプルダウンにより○を選択して入力してください。

検査室に関する配慮	
3	<input checked="" type="radio"/> 別室

- 次の項目を選択している場合には、原則として「別室」となります。

<ul style="list-style-type: none"> 「検査時間に関する配慮」 「解答方法に関する配慮」 「検査用紙に関する配慮」 「その他」のうち、「介助者の配置」 	原則として 「別室」
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

ウ 「解答方法に関する配慮」の入力(原則として別室、II 2 (6)イ参照)

- 「解答方法に関する配慮」が必要な場合にはプルダウンにより○を選択して入力してください。
- 「代筆解答による受験」又は「問題等の代読による受験」を選択した場合、下にある「介助者」欄に入力してください(入力が必要な場合は、セルの色が黄色となります)。

介助者			
介助に当たる者の名前(中学校教諭)	○○ ○○	申請者との関係	支援学級担任

- 「代筆解答による受験」で「介助者による意思伝達」が必要な時は、プルダウンにより○を選択して入力してください。さらに、下にある「意思伝達の方法」について具体的に入力してください。

解答方法に関する配慮（原則別室）			
<input type="radio"/>	代筆解答による受験	<input type="radio"/>	介助者による意思伝達 「意思伝達の方法」を記載すること
<input type="radio"/>	問題等の代読による受験		
介助者			
介助に当たる者の名前（中学校教諭）		○○ ○○	申請者との関係 支援学級担任
意思伝達の方法			
口頭により伝達する。			

エ 「検査用紙に関する配慮」の入力（原則として別室、Ⅱ 2 (6)イ参照）

- ・「検査用紙に関する配慮」が必要な場合にはプルダウンにより○を選択して入力してください。
- ・「検査時間に関する配慮」で「点字による受験」を選択した場合、自動で「点字」が選択されます。
- ・「検査用紙に関する配慮」で「検査用紙の拡大」を選択した場合、拡大の方法をプルダウンにより○を選択して入力してください。A 4をB 4の大きさに拡大する以上の拡大が必要な場合には「その他」を選択し、内容を具体的に入力してください。

検査用紙に関する配慮（原則別室）			
点字			
漢字にルビを付した検査用紙の使用			
<input type="radio"/>	検査用紙の拡大	<input type="radio"/>	検査用紙 を B 4 の大きさに拡大
		<input type="radio"/>	その他

どちらか1つの選択

検査用紙に関する配慮（原則別室）			
点字			
漢字にルビを付した検査用紙の使用			
<input type="radio"/>	検査用紙の拡大	<input type="radio"/>	検査用紙 を B 4 の大きさに拡大
		<input type="radio"/>	その他 検査用紙をA 3の大きさに拡大

オ 「持参して使用するものに関する配慮」の入力

- ・携行品として入学者選抜実施細目に記載されているもの以外のものを検査室に持参して使用することを希望する場合には、「持参して使用するものに関する配慮」をプルダウンにより○を選択して入力してください。また、持参して使用することを希望するものを箇条書きで入力してください。

持参して使用するものに関する配慮		【記入例】 ・拡大鏡 ・車いす ・レイズライター ・点字タイプライター ・特製机、いす ・杖、クラッチ 等
<input type="radio"/>	・電動車いす ・特製机	

セル内で改行をするときには、**Alt** + **Enter** により行うことができます。

カ 「その他」の入力

- ・「点字による受験」又は「代筆解答による受験」を希望する者が、自己申告書の代筆を希望する場合には、「自己申告書の代筆」をプルダウンにより○を選択して入力してください。

その他	
10	<input type="radio"/> 自己申告書の代筆

- ・代筆及び代読の介助を除き、介助者の配置を希望する場合には、「介助者の配置（代筆及び代読の解除を除く。）」をプルダウンにより○を選択して入力してください。また、介助者が行う内容を箇条書きで入力してください。

11	<input type="radio"/> 介助者の配置（代筆及び代読の介助を除く。） ・検査用紙の使用補助 ・消しゴムの使用補助	【記入例】 ・検査用紙の使用補助 ・消しゴムの使用補助 ・落ち着かせるための声掛け 等
----	-------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

- ・上記の項目以外に希望する配慮がある場合には、「その他必要な配慮」をプルダウンにより○を選択して入力してください。また、その内容を箇条書きで入力してください。

12	<input type="radio"/> その他必要な配慮 ・検査時間中の薬の服用	【記入例】 ・検査時間中の薬の服用 ・吸入器の持参使用 ・注意事項等の文書による伝達 等
----	-----------------------------------------------	--------------------------------------------------------------

(7) 「6 生活上必要な配慮（身体等の介助、医療的ケア、トイレ等介助など）の入力

小論文及び面接の実施日において希望する生活上必要な配慮について、具体的に入力してください。

6 生活上必要な配慮（身体等の介助、医療的ケア、トイレ等介助など）	
・電動車いすによる移動の補助（本人は自力で走行できるが、見守りが必要）、エレベータの使用 ・トイレ介助（障がい者用トイレを使用し、衣類の着脱、姿勢保持、排せつ後の処理が必要）	

(8) 「7 受験に際し配慮を必要とする具体的理由」の入力

「5 小論文において希望する配慮」で選択した項目について、必要とする具体的理由（診断名等だけでなく、障がいの状況により、受験にあたりどのように困っているのか、そのことに伴ってどのような配慮が必要なのか）を入力してください。

- ・入力項目は「5 小論文において希望する配慮」で選択した項目が自動的に表示されます。
- ・右側の「具体的項目」を入力してから、「5 小論文において希望する配慮」の○印をつける項目を変更した場合、左側の項目の表示は変更されますが、右側の具体的項目は元の入力があるまま残っています。「5 小論文において希望する配慮」を変更した場合には、項目と具体的理由が一致しているかどうかを必ず確認してください。

7 受験に際し配慮を必要とする具体的理由	
1 検査時間の延長（約1.3倍）について	両上肢にまひがあり、身体全体のバランスをとることが難しく、筆記の際の力加減ができない。そのため、筆記に時間を要する。緊張する場面では、身体が硬直し、本人の意思で動かすことができず、さらに筆記に時間を要することもある。
2 検査用紙に関する配慮について	両上肢にまひがあり、身体全体のバランスをとることが難しく、枠内に文字を取めることが難しい。B 4に拡大することで、文字を枠内に取めることができる。
3 持参して使用するものに関する配慮について	生活全般で電動車いすを使用している。通常の机で解答することは困難で、座位保持のためにも、天板の高さと大きさに配慮があることから、特製机の持込みが必要である。
4 介助者の配置について	両上肢のまひ及び身体の緊張から、検査用紙をめくることが困難である。消しゴムの使用は困難であるため、本人の指示により、教員が使用を代替することが必要である。

3 出力

「配慮」シートを選択して、出力します。



(1) 入力内容の確認

入力シートで入力した内容が申請書に反映されています。申請内容が正しく反映されているか確認してください。

(2) 「中学校具申」「市町村教育委員会副申」欄の確認

入力シートの区分で「公立の中学校」を選択すれば、申請書には【中学校具申】【市町村教育委員会副申】欄が、「府立支援学校」「国私立の中学校等」を選択すれば、申請書には【中学校具申】欄が表示されます。

【中学校具申】	共通	令和	年	月	日	
本申請について、上記のとおり相違ないことを具申します。						
中学校名	大阪市立〇〇中学校	校長名				印
【市町村教育委員会副申】	公立の中学校のみ	令和	年	月	日	
本申請について、上記のとおり相違ないことを副申します。						
	大阪市 教育委員会 教育長					印

(3) 印刷

エクセルの印刷機能により印刷します。A4判両面（長辺綴じ）となるように作成してください。

4 添付書類について

障がいの状況を示す具体的な資料や持参して使用することを希望するものの写真等又は申請書の枠内に入力しきれない事項について記載したものがある場合は、別に添付して提出してください。

5 提出前に

- (1) 提出書類は、A4判で統一し、両面コピーすることを原則とします。
- (2) 申請書を含めた提出書類は、申請者ごとにまとめ、クリップで留めて提出してください。（ホッチキス留めしないでください。）

Ⅲ

日本語指導が必要な帰国生徒等に対する配慮

1 使用するファイル

使用するファイルは「704-706_日本語指導が必要な帰国生徒等に係る申請.xlsx」です。



704-706_日本語指導が必要な帰国生徒等に係る申請.xlsx

2 入力

入力シートにより入力を行います。



(1) 「区分」の入力

ア 区分は「公立の中学校」「府立支援学校」「国私立の中学校等」から選択してください。

- ・府立中学校は「府立支援学校」を選択してください。
- ・「ダイレクト」は海外現地校から志願する者の区分です。

イ 区分で「公立の中学校」を選択した場合は、「市町村名」を入力してください。

- ・入力は「大阪市」「能勢町」のように、市・町・村まで入力してください。
- ・区分で「公立の中学校」以外を選択した場合は、「市町村名」の入力欄が表示されません。

 はプルダウンメニューから選択し、 は必要事項を入力してください。

区分	公立の中学校	市町村名	大阪市	「大阪市」のように市・町・村まで記入
	公立の中学校			
	府立支援学校			
	国私立の中学校等			
	ダイレクト			

(2) 「1 申請者」の入力

ア 名前は指導要録に記載のとおりに入力してください。

- ・通称名をも記載する場合は、本名のあとに（ ）で入力してください。
- ・ unnecessary スペースの入力や改行は避けてください。
- ・アルファベットは半角で入力してください。
- ・ふりがなと名前の位置を揃える必要はありません。
- ・ふりがなの表記は指導要録の記載のとおりとし、ひらがなで記載されている場合にはひらがなで、カタカナで記載されている場合にはカタカナで入力してください。

イ 生年月日は指導要録に記載のとおりに入力してください。

- ・「元号」／「西暦」はプルダウンによって選択できます。

ウ 中学校名を入力してください。

- ・「〇〇立」は、自動で表示されます。これに続けて入力してください。
- ・卒業（見込み）年月の入力にあたっては、「元号」／「西暦」及び「卒業」／「卒業見込み」はプルダウンによって選択できます。

 はプルダウンメニューから選択し、 は必要事項を入力してください。

区分	公立の中学校	市町村名	大阪市	「大阪市」のように市・町・村まで記入
----	--------	------	-----	--------------------

1 申請者	
ふりがな	おおさか はるこ
名前	大阪 春子
生年月日	平成 ○ 年 10 月 22 日生
中学校等	大阪市 立 ○○中学校 令和 ○ 年 3 月 卒業

生年月日	西暦 ○ 年
申請	平成 ○ 年 立
	昭和 ○ 年 立
	西暦 ○ 年

令和 ○ 年 3 月 卒業
令和 ○ 年 3 月 卒業
平成 ○ 年 3 月 卒業見込み
昭和 ○ 年 3 月 卒業見込み
西暦 ○ 年 3 月 卒業見込み

(3) 「2 申請の区分」の入力

申請する項目の「申請」欄に○をプルダウンにより選択して入力してください。

- ・「日本語指導が必要な帰国生徒等に対する配慮」の申請は「配慮」を、さらに「小論文の日本語以外の使用」または「自己申告書の代筆又は日本語以外の使用」の申請は「小論文の日本語以外の使用 自己申告書の代筆又は日本語以外の使用」を選択してください。
- ・「入力」シートの全ての入力が完了した後に、右端の欄に「要相談」が表示されている場合には、中学校を所管する教育委員会に相談してください。

2 申請の区分	
申請	項目
○	配慮
	小論文における日本語以外の使用 自己申告書の代筆又は 日本語以外の使用

3 申請者の帰国・入国に係る確認	
質問	回答
小学校1年生前に日本に在住したことがない	

全て入力後に確認

(4) 「3 申請者の帰国・入国に係る確認」の入力

申請者の日本在住に係る質問について、プルダウンにより「はい」又は「いいえ」で回答してください。「2 申請の区分」で入力した内容とこの項目で回答した内容によって、「8 申請者の渡航歴等」の入力が必要かどうか、自動で判断します。

2 申請の区分	
申請	項目
○	配慮
	小論文における日本語以外の使用 自己申告書の代筆又は 日本語以外の使用

3 申請者の帰国・入国に係る確認	
質問	回答
小学校1年生前に日本に在住したことがない	はい
帰国又は入国した年月日	はい いいえ

ア 「8 申請者の渡航歴等」の入力を必要としない場合

質問に回答した結果、下の欄に「帰国又は入国した年月日」の入力欄が出現した場合は、「8 申請者の渡航歴等」に入力する必要はありません。「帰国又は入国した年月日」欄に初めて帰国又は入国した年月日をすべて半角英数字で「2017/1/14」（年・スラッシュ・月・スラッシュ・日）のように入力してください。自動で年月日表示になります。

2 申請の区分		3 申請者の帰国・入国に係る確認	
申請	項目	質問	回答
<input type="radio"/>	配慮	小学校1年生前に日本に在住したことがない	はい
	小論文における日本語以外の使用 自己申告書の代筆又は 日本語以外の使用	帰国又は入国した年月日	2017年1月14日

イ 「8 申請者の渡航歴等」の入力を必要とする場合

質問に回答した結果、下の欄の橙色のセルに「「8 申請者の渡航歴等」の記載が必要です。」とメッセージが現れている場合は、「8 申請者の渡航歴等」の記載を必要とします。この場合、「4 帰国等の状況」の「帰国又は入国した年月日」は「8 申請者の渡航歴等」から自動で判断されます。

2 申請の区分		3 申請者の帰国・入国に係る確認	
申請	項目	質問	回答
<input type="radio"/>	配慮	小学校1年生前に日本に在住したことがない	いいえ
	小論文における日本語以外の使用 自己申告書の代筆又は 日本語以外の使用		
<input type="radio"/>	「8 申請者の渡航歴等」の記載が必要です。		

(5) 「4 帰国等の状況」の入力

ア 「帰国又は入国した年月日」は「3 申請者の帰国・入国に係る確認」又は「8 申請者の渡航歴等」から自動で表示されます。

- ・「8 申請者の渡航歴等」の記載が必要な場合は、「8 申請者の渡航歴等」の入力後に正しく表示されているかを確認してください。

イ 「編入学した学年」をプルダウンにより選択し入力してください。

- ・「編入学した学年」の判断は、p. 20 を参考にしてください。

4 帰国等の状況	
帰国又は入国した年月日	2017年 1 月 14 日
編入学した学年	小学校 4 年

(6) 「5 小論文において希望する配慮事項」の入力

ア 小論文において希望する配慮事項をプルダウンにより選択し入力してください。

- ・入力項目が青色で表示され、プルダウンにより選択し入力できます。黄色のセルは、直接入力してください。
- ・「検査時間の延長（約 1.3 倍）」「別室」は自動で入力されます。

イ 「自己申告書の代筆又は日本語以外の使用」を希望する場合、「自己申告書の代筆」又は「自己申告書の日本語以外の使用」のどちらかをプルダウンにより選択し入力してください。

- ・「キーワードの外国語併記」、「辞書の持込み」、「小論文の日本語以外の使用」、「自己申告書の日本語以外の使用」のうち、複数を希望する場合は、申請する言語は原則同じ言語とします。

青色セルについて選択

5 小論文において希望する配慮事項（配慮を希望する場合に入力）		
<input type="radio"/>	検査時間の延長（約1.3倍）	
<input type="radio"/>	別室	
<input type="radio"/>	キーワードの外国語併記	言語 タガログ 語
<input type="radio"/>	漢字にひらがなのルビを付した検査用紙の使用	
<input type="radio"/>	辞書の持込み 原則、同じ言語とする	言語 タガログ 語
<input type="radio"/>	小論文の日本語以外の使用	言語 語
<input type="radio"/>	自己申告書の代筆	どちらか一つに限る
<input type="radio"/>	自己申告書の日本語以外の使用	
<input type="radio"/>		言語 語

(7) 「6 日常生活で使用している言語等の状況」の入力

ア 申請者本人の日本語理解力（日常会話の理解力及び学習に係る読み書きの能力）について、小中学校や帰国者センター、市町村の設置する日本語教室等で受けてきた日本語指導の状況、日常生活で使用している言語等の状況その他特記すべき事項を、具体的に入力してください。

イ 申請者の状況について、「日本語による指示や簡単な説明を理解できる」「保護者懇談会や家庭訪問等において、通訳者を配置している」の項目のうち該当するものに○をプルダウンにより選択して入力してください。

6 日常生活で使用している言語等の状況	
日本語で日常会話はできるが、学習に用いる言葉は年齢相当ではない。小学校6年生で編入後、小学校と中学校の日本語学習教室で日本語指導を受けてきた。家庭では●●語で話すが、必要に応じて英語で話す。学習言語がわからない場合は、英語で説明すると理解できる。学習言語は、教科によるが、小学校4、5年生～中学校1年生程度なら多くは理解できる。日本語学習が進んでからは、日本で学習してきた言葉であれば記憶している学習言語も多くなる。ただし、学習していない言葉（例えば社会科の日本の歴史用語）は、ほとんど知らない。読み書きのレベルはDLA「読む」ステージ3～4（語彙力チェック ●●%）である。小学校4年生から5年生ぐらいの読み物を読んで、大まかに理解することができる。音読は、ゆっくりだが、だいたい文節や単語に区切って読むことができる。小学校4年生から5年生の読み物の語彙や漢字が理解できる。「書く」は、漢字、漢語をひらがなで書く時やカタカナ語の表記の誤用や助詞の誤用があるが、意味の通じる複文が書ける。小学校5年生程度の語彙や漢字が使える。	
<input type="radio"/>	日本語による指示や簡単な説明を理解できる
<input type="radio"/>	保護者懇談会や家庭訪問等において、通訳者を配置している

セル内で改行をするときには、 **Alt** + **Enter** により行うことができます。

(8) 「7 中学校における配慮や支援等」の入力

中学校における日本語指導の状況、中学校における授業等での配慮、その他、特記すべき事項について、具体的に入力してください。

7 中学校における配慮や支援等
<ul style="list-style-type: none">・定期考査ではルビ打ちをした問題を使用した。・放課後は中学校で日本語の勉強をさせた。・放課後には授業の学習内容を復習しながら、日本語の分からない部分について補った。

(9) 「8 申請者の渡航歴等」の入力

出入（帰）国記録等に照らして、申請者の渡航歴等を入力してください。（ただし旅行や帰省等、短期の出入国記録は除きます。）

ア 「居所」は生活基盤をどこに置いているかという観点から、「日本」「日本以外」のどちらかを選択してください。

イ 「就学先」は

未就学 : 小学校入学前又は小学校以上の学校に就学していない場合（編入学前の手続き期間を含む。）

日本にある学校 : 所在地が日本国内にある学校

日本人学校等 : 所在地が日本以外で、主に日本語で授業が行われている学校

海外現地校等 : 所在地が日本以外で、主に外国語で授業が行われている学校

その他 : 上記4パターン以外の場合

から選択し、入力してください。

ウ 「期間」は、出入（帰）国記録等に照らし、西暦で記入してください。はじめは申請者本人の生年月日が自動で表示されます。最後は「2023年9月30日」で終わるように入力してください。

・すべて半角英数字で「2010/1/14」（年・スラッシュ・月・スラッシュ・日）のように入力してください。自動で年月日表示になります。

エ 「居所」が「日本」の場合、就学期間と未就学期間を分けて入力してください。

オ 学校の就学を伴わない短期の出入国（旅行や帰省等）は除いて入力してください。

例：日本の中学校に在籍している2021年8月1日～8月29日の間に中国に帰省した。

→日本の中学校の期間に含める。

カ 「資料番号」は、記載内容を証明する添付資料の中で該当箇所につけた番号を入力してください。

8 申請者の渡航歴 (記載内容を証明する資料を添付すること)					
居所	就学先	学校名等	期 間		資料 番号
1 日本以外	未就学		2007年10月22日	～	2014年3月31日
2 日本	未就学		2014年2月2日	～	2014年3月31日
3 日本	日本にある学校	▲▲市立●●小学校	2014年4月1日	～	2014年7月15日
4 日本以外	未就学	就学手続き期間	2014年7月16日	～	2014年8月28日
5 日本以外	海外現地校	◎◎HIGH SCHOOL	2014年8月29日	～	2020年3月31日
6 日本	日本にある学校	▲▲市立●●中学校	2020年11月13日	～	2023年3月31日
7 日本	未就学		2023年4月1日	～	2023年9月30日

ア

イ

ウ

カ

エ

オ

生年月日 (自動で表示)

すべて半角英数字で
「2010/1/14」(年・ス
ラッシュ・月・スラッシ
ユ・日) のように入力

2023年9月30日で終
わること

3 渡航歴の考え方

「帰国又は入国した年月日」と「編入学した学年」は、次のように考えます。

(1) 「帰国又は入国した年月日」

- ・海外で生まれた者：日本に初めて入国した日
- ・日本で生まれた者：生年月日

(2) 「編入学した学年」

- ・現在からさかのぼり直近で編入学した学年

【例】 ★帰国又は入国した日、 ▲編入学した学年、 居所が日本以外、 居所が日本

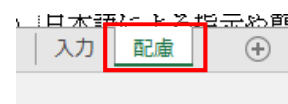
誕生日

							小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
Aさん											★				
Bさん	★												▲		
Cさん	★													▲	
Dさん					★									▲	

Aさん	日本以外で生まれ、小学校4年生の途中に入（帰）国し、編入学した。
Bさん	日本で生まれ、小学校入学前に海外に転居し、中学校1年生で編入学した。
Cさん	日本で生まれ、2歳の時に海外に転居し、小学校2年生の時に入（帰）国し、編入学した後、小学校5年生から再度海外に転居し、中学校2年で編入学した。
Dさん	日本以外で生まれ、4歳の時に入（帰）国し、6歳の途中まで日本に居住したが、海外に転居して小学校に入学した。海外で小学校6年まで過ごし、中学1年生の時に再度入（帰）国し、編入学した。

4 出力

「配慮」シートを選択して、出力します。



(1) 入力内容の確認

- ア 入力シートで入力した内容が申請書に反映されています。**申請した内容が正しく反映されているかを確認してください。**
- イ 入力シートの「2 申請の区分」において、右端の欄に「要相談」が表示されている場合には、中学校を所管する教育委員会に相談してください。

(2) 「中学校具申」「市町村教育委員会副申」欄の確認

入力シートの区分で「公立の中学校」を選択すれば、申請書には【中学校具申】【市町村教育委員会副申】欄が、「府立支援学校」「国私立の中学校等」を選択すれば、申請書には【中学校具申】欄が表示されています。

【中学校具申】	共通	令和	年	月	日
本申請について、上記のとおり相違ないことを具申します。					
中学校名	大阪市立〇〇中学校	校長名			印
【市町村教育委員会副申】	公立の中学校のみ	令和	年	月	日
本申請について、上記のとおり相違ないことを副申します。					
	大阪市 教育委員会 教育長				印

(3) 印刷

エクセルの印刷機能により印刷します。**A 4判両面（長辺綴じ）**となるように作成してください。

5 添付書類について

確認項目等		提出書類例	提出書類の処理	備考
出入（帰）国記録		パスポートの写し等のうち、名前、生年月日、入（帰）国年月日が記載されている箇所	名前、生年月日、入（帰）国年月日についてマーカー	<ul style="list-style-type: none"> 学校の就学を伴わない短期の出入国記録は除く。（例：旅行、帰省等） 学校の就学を伴う出入（帰）国については、それぞれの出入（帰）国年月日が確認できること。
編入時期	小学校に編入した者	小学校の指導要録の写し又は抄本のうち、児童名、生年月日、編入年月日が記載されている箇所を含むもの	児童生徒名、生年月日、編（転）入年月日についてマーカー	<ul style="list-style-type: none"> 小学校に編入し、その後、卒業予定の中学校に進学した場合は、小学校の指導要録の写し等が必要。 編入が複数回あった場合は、それぞれの学校における指導要録の写し等が必要。
	中学校に編入した者	中学校の指導要録の写し又は抄本のうち、生徒名、生年月日、編入年月日が記載されている箇所を含むもの		<ul style="list-style-type: none"> 編入後、転学した場合は、転学後の指導要録の写し等が必要。
	編入後転学した者	指導要録の写し又は抄本のうち、児童・生徒名、生年月日、転入年月日が記載されている箇所を含むもの		
	小・中学校に編入していない者			
外国における在留期間		保護者の勤務先が発行する帯同証明書、外国の学校における在学証明書、パスポートの写し、出入（帰）国記録等、外国において、継続して2年以上在留していたことが確認できるもの。	名前、在留期間がわかる部分（在留期間の始期と終期）についてマーカー	

提出書類は、申請者1人につき1部とします。

6 提出前に

- 提出書類は、**A4判で統一し、両面コピー**することを原則とします。
- 申請書を含めた提出書類は、申請者ごとにまとめ、**クリップで留めて提出**してください。（ホッチキス留めしないでください。）
- 在留資格、入国時期、編（転）入学年月日等が**確認できる箇所を黄色のマーカー**で示してください。

